

霧島山（えびの高原（いおうやま硫黄山）周辺）の火山活動解説資料

福岡管区気象台

地域火山監視・警報センター

鹿児島地方気象台

えびの高原で、5月15日及び22日に現地調査を実施しました。

硫黄山周辺の沢で、引き続き白濁した泥水が流れていることを確認しました。硫黄山火口内の南側の領域では、湯だまりがみられています。

【防災上の警戒事項等】

えびの高原の硫黄山から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石¹⁾（火山れき²⁾）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○ 活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1～4）

5月15日及び22日にえびの高原で現地調査を実施しました。いずれの観測でも、硫黄山周辺の沢で引き続き白濁した泥水が流れていることを確認しました。15日の観測に比べ、22日の観測では、その色は薄くなっていました。

硫黄山南監視カメラでは、これまで上空からの観測や現地調査において硫黄山の南側で泥水の噴出が観測されていた場所に、湯だまりを確認しました。

硫黄山では、4月27日以降、噴火は観測されていません。西側の噴気の量は以前よりやや少なくなっているものの、活発な噴気活動が続いています。

- 1) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 2) 霧島山では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『基盤地図情報』『基盤地図情報（数値標高モデル）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



図1 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 硫黄山周辺の状況

えびの高原から観測（上段：5月22日、下段：5月15日）

いずれの観測でも、硫黄山周辺の沢で引き続き白濁した泥水が流れていることを確認しました。
15日の観測に比べ、22日の観測では、その色は薄くなっていました。

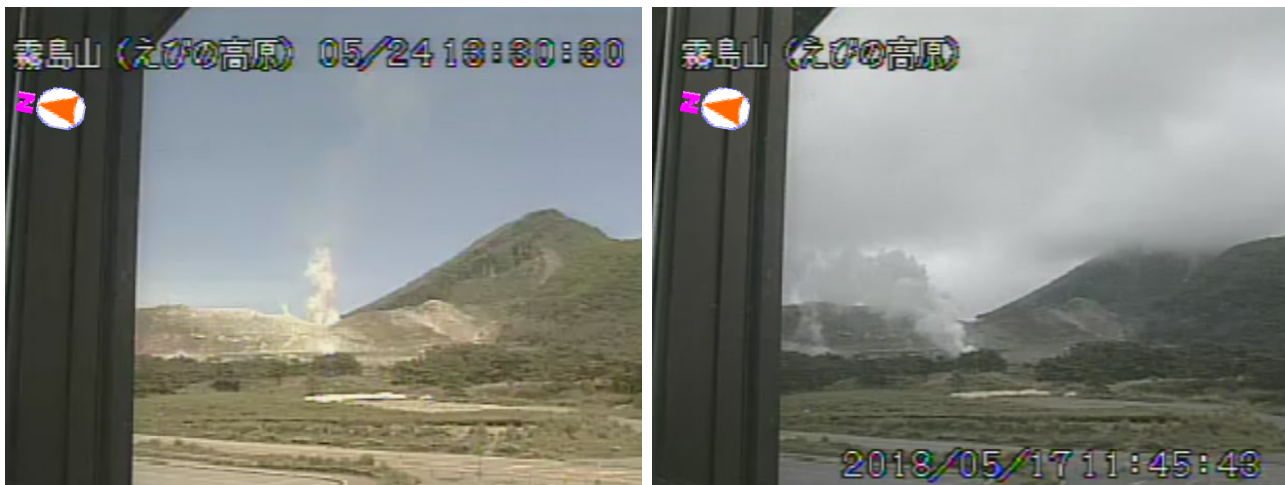


図2 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 硫黄山の噴気の状態（えびの高原監視カメラによる）
（左：5月24日13時30分、右：5月17日11時45分）

硫黄山では、4月27日以降、噴火は観測されていません。西側の噴気の量は以前よりやや少なくなっているものの、活発な噴気活動が続いています。

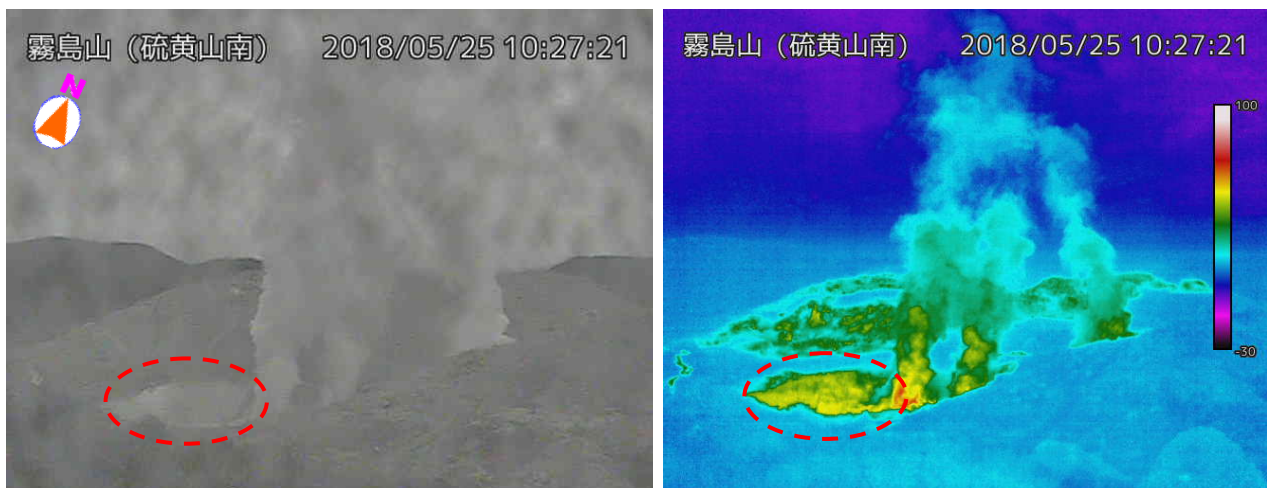


図3 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 硫黄山の火口付近の状況（硫黄山南監視カメラによる）
（5月25日10時27分）

これまで上空からの観測や現地調査において硫黄山の南側で泥水の噴出が観測されていた場所に、20～30m程度の湯だまり（赤破線部）を確認しました。

※硫黄山南監視カメラは、噴出物の付着のため不鮮明な状態となっています。

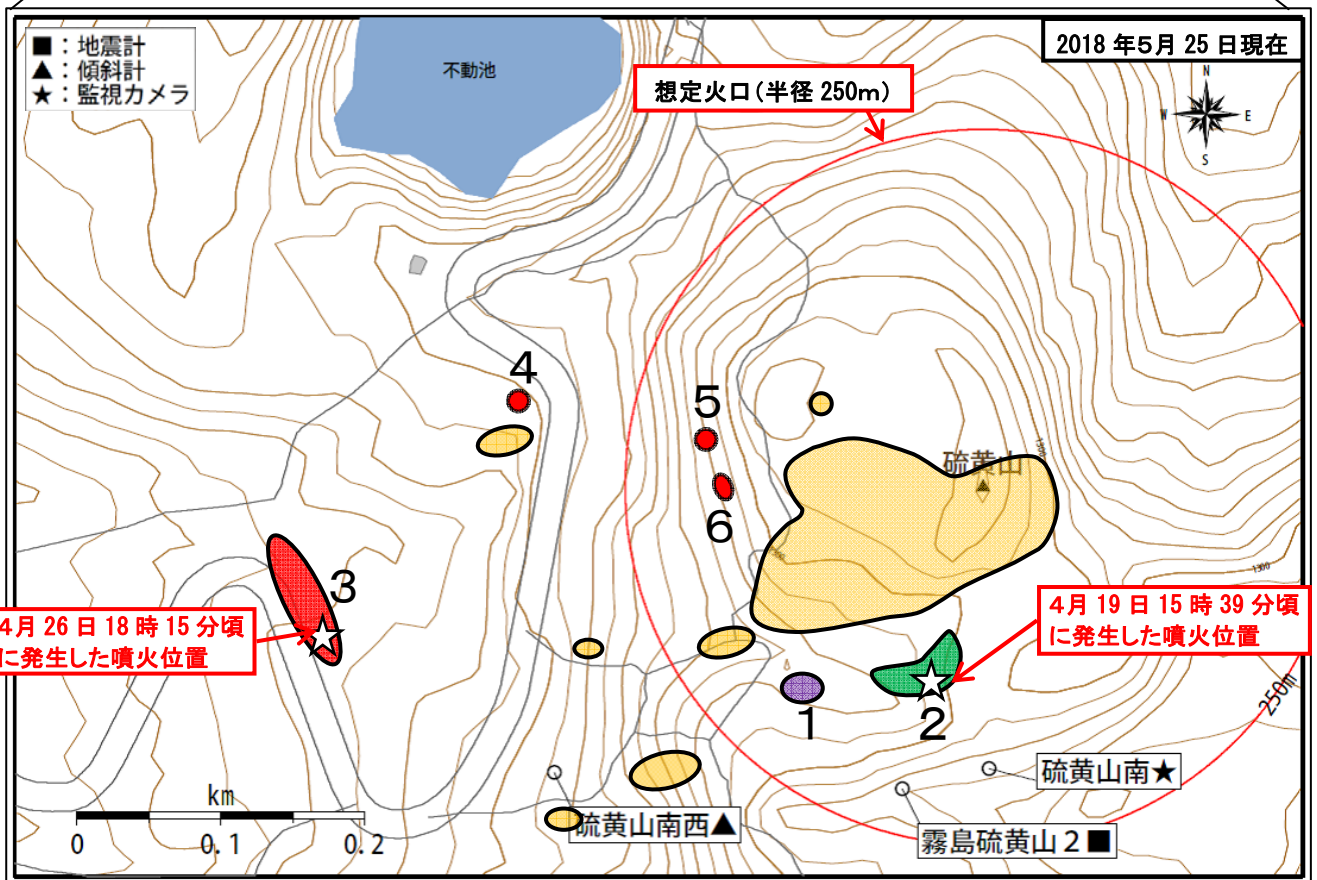
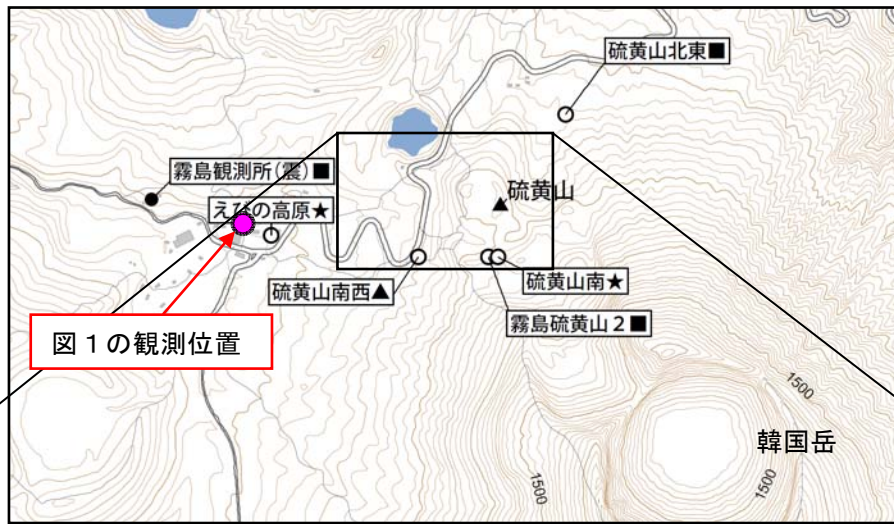


図4 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 噴火位置、主な熱異常域及び観測位置

- ・ 橙色は主な熱異常域及び噴気域を示します。
- ・ 4月9日に確認した噴気域及び熱異常域を●で示します（一時期、活発な泥水の噴出がみられました）。
- ・ 噴火以降に拡大した噴気域を●及び●で示します。
- ・ ●の領域内で湯だまり及び泥水の噴出がみられています。
- ・ 図1の観測位置を●で示しています。

2018年4月以降に出現した噴気域を、番号で示します。以下は噴気域を観測し始めた日付です。

1. 火口内の南西側 2018年4月9日～
2. 火口内の南側 2018年4月19日～
3. 硫黄山の西側約500m 2018年4月20日～
4. 硫黄山の西北西側約350m 2018年4月22日～
5. 火口内の西北西側 2018年4月22日～
6. 火口内の西側 2018年4月26日～